

共有iPadで使えるMDMとしてJamf Proを導入。 看護師の教育環境の向上に期待しています

社会医療法人石川記念会 HITO病院様
Appleデバイス管理ソリューション Jamf Pro導入事例

HITO 病院



HITO病院は「未来創出HITOプロジェクト」のもと、医療の質の向上、業務の効率化、働き方改革の実現のためICTを積極的に活用。これまでオンライン診療、音声入力可能なiPhoneカルテ、健康診断結果を患者様自身のスマートフォンで確認できる「NOBORI」など、数々の施策にICTを活用してきました。

そして今回、共有iPadのMDM (Mobile Device Management) にJamf Proを導入し、看護師の教育環境を向上させるシステムを構築。その経緯と効果について、社会医療法人石川記念会 HITO病院 理事長 石川ヘルスケアグループ 総院長 石川 賀代氏、社会医療法人石川記念会 HITO病院 経営企画室 DX推進課 村山 公一氏に詳しく伺いました。

看護師の教育環境向上のため、共有iPad+Jamf Proを導入

当院に勤務する看護師に向けた教育環境の強化を図るために導入した共有iPadの管理にJamf Proが必要でした。看護師に向けた教育環境の強化については以下の通りです。

地域の皆様に安心・安全な医療を提供するには、適正な教育を受けたスタッフがいなければ成り立ちません。しかし、地域人口が減少しているなか、医療の質を担保しながら最善の医療を提供できる人材を確保するのは極めて困難な状況です。そこで当院としては、医療に従事しながら快適に学べる環境を看護師に提供するのがベストだと判断しました。



社会医療法人石川記念会 HITO病院様／プロフィール

愛媛県四国中央市に位置する社会医療法人石川記念会 HITO病院は、1979年に開設した石川病院を2013年に改名・移転し、新病院として開院。

病院のコンセプトは「いきるを支える」で、このコンセプトを表現する病院名の「HITO」という言葉には、人(患者様)を中心に医療を考え、「病を診るだけでなく、人を診る医療でありたい」という私たちの思いと、病院名をスタッフが口にするたびに理念や行動規範を意識できるものになりたいという思いが込められている。

所在地: 〒799-0121 愛媛県四国中央市上分町788番地1

設立: 2013年

病床数: 257床 (HCU 17床、地域包括ケア病棟 53床、緩和ケア病棟 17床、回復期リハビリテーション病棟 50床)

職員数: 565名 (2020年10月1日現在) 内: 看護数192名

<http://hitomedical.co-site.jp/>

もともと看護師は技術を学んでいく職種ですから、1年目、2年目、3年目といった具合にステップアップを目指す教育システムがあります。ところが、既存の教育はすべて紙で行われていたため、数百名を超える看護師が在籍している当院の場合、どうしても運用が煩雑になっていました。

また、看護師の評価において、現在のままでは管理職へのフィードバックが難しい場面が多々あります。そもそも目まぐるしい業務のなか、看護師と管理職が時間を割いて面談の時間を設けるだけでも大変。さらに、看護師自身の評価と管理職の評価が一致しないことも少なからずあって、我々としては看護師のモチベーションを懸念していました。何か良い解決手段がないかと思案していたところ、共有iPadのアナウンスをキャッチしました。

当院はICTの利活用を推進し、医療の質と業務効率の向上を図るプロジェクト「未来創出HITOプロジェクト」に取り組んでおり、情報共有用のiPhoneや医師業務の効率化を促進するiPadなどを積極的に導入してきました。ですから、看護師の教育を紙からクラウドに移行し、iPadでアクセスする仕組みの構想はありました。

ただ、数百人もの看護師一人ひとりにiPadを配布するのは、コスト的に難しいと思っていました。共有iPadなら、一台のiPadを複数の看護師がシェアできるので、看護師の教育環境には最適だと考えました。

共有iPadで使えるMDMがJamf Pro

iPhoneで利用していたMDMを使うつもりでしたが、仕様上、共有iPadでは使えないことが判明。その際、関係者の方から紹介いただいたのがJamf Proでした。Jamf Proは共有iPadで使えるだけでなく、アップル製品と親和性が高いとのこと。とくにApple Business Manager (ABM) と連携できる点で大きな期待がありました。また、この教育システムのためにAppの開発を行い、カスタムAppとして当院のみで公開しているAppもJamf Proなら配布できるという点もとても魅力的でした。

最短での導入を実現

2020年8月中旬にJamfとミーティングを行い、その日中に設定は終わりました。そして、機能面とABMとの連携を2日間で検証し、そこから0.5日で共有アプリとの連携をつくりました。翌週の月曜日からテスト用iPad一台のテストランを実施した次第です。おかげさまで、ミーティングの一週間後にはJamf Proを導入する目処が立ちました。Jamfからは「大手IT企業でも、そのスピード感は難しい」とおっしゃっていただき、大変うれしく思っています。

Apple Business Managerで作成できる管理対象Apple ID、そしてJamf Proによって、しっかりとセキュリティが担保されていると感じました。これなら、共有iPadで複数の看護師が使い回しても問題ないと判断しました。

また、現場で利用する看護師にヒアリングしたところ、「場所や時間を選ばず使えるのが良い」と言っていました。実際、クラウド上にアップされた課題に対する回答は、

HITO病院院外受講講座



HITO病院の各種講座資料・動画などを搭載したアプリです。

ログイン

ユーザー登録

配信講座・資料一覧

給与明細照会サービス
Bulus Payslip Mobile
for スマートフォン



研修医向け講座

現在公開中

- 乳がんについて
講師名：小坂泰二郎
- 整形外科レントゲンの撮り方
講師名：福田高彦
- 内科救急
講師名：大宮 久美子
- 救急対応について
講師名：相引 眞幸
- よりよい研修のために
講師名：五十野 博基
- レジデントレクチャー（五十野先生）
講師名：五十野 博基



社会医療法人石川記念会 HITO病院 理事長
石川ヘルスケアグループ 総院長
石川 賀代氏

空き時間に入力すれば、既存業務に影響を与えない範囲で利用できます。しかも、BYOD (Bring Your Own Device、従業員が個人保有の携帯用機器を職場に持ち込み、それを業務に使用すること) 端末からもアクセスできますから、自宅で回答することも可能。自己研鑽に励める環境だと思いました。

さらに、入力し提出した課題は、管理職に通知が届く仕組みで、いつでも課題の確認ができます。提出と確認のレスポンスが良くなりますから、使い続けていくことで看護師の評価と管理職の評価は近くなるのではないかと思います。

パートナーシップと提案力を感じるJamfのサポート

テスト中、我々の疑問に対して素早くご回答いただいたこと、疑問に対して的確かつ具体的なアンサーをいただいたことなど、Jamfのサポートには大変感謝しています。これまでさまざまなメーカー、ベンダーとお付き合いさせていただきましたが、こんなにも顔が見えるサポートは初めてでした。パートナーシップと提案力を感じるJamfのサポートは、本当に素晴らしいですね。

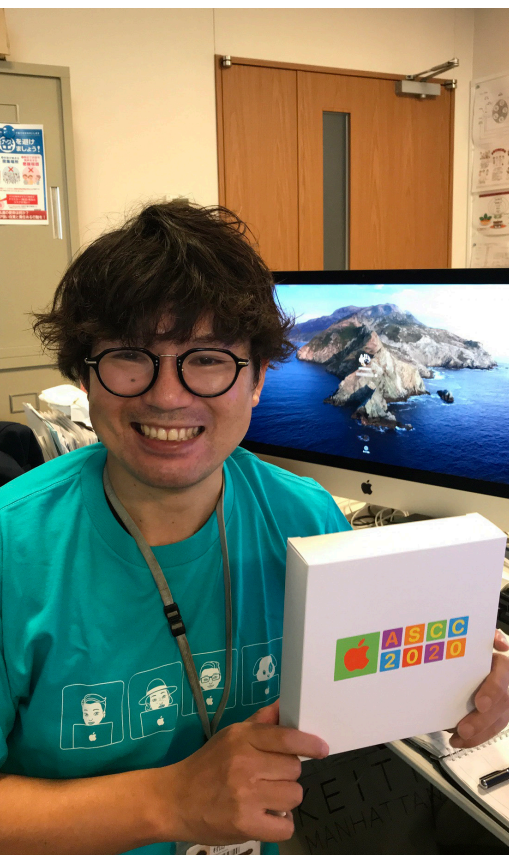
管理職の運用もすでにスタートしており、本番稼働は11月を予定しています。11月、12月に教育コンテンツを配信していく形になるでしょう。ただし、完成形のシステムを11月にリリースするわけではありません。リリース後もフィードバックを鑑みながら、絶えず更改を進めていくスタイルになると思っています。

今後の展開とJamfへの期待

今回の共有iPadとJamf Proの教育システムは、看護部の横展開ほか、リハビリテーションや介護などの部門にも展開していきたいと考えています。また、既存のiPhoneもiPadと同様に共有できるようになれば、Jamf Proを導入したいと思っています。

現在の共有iPadはログインする際に文字だけですが、今後は顔写真も表示できるようになると、より使いやすくなるのではないかと期待しています。

Jamfは単にソフトウェアや機能を売っているのではなく、サポートなどを通じ、当院の理念である「HITOを中心に考え、社会に貢献する」に近いものを感じました。今後もJamfのサポートがあれば、当院の教育はもちろん、ICTの利活用は大きく変わるのではないかと期待しています。引き続き、これからもよろしくお願いします。



社会医療法人石川記念会 HITO病院
経営管理室 DX 推進課 HIA
村山 公一氏